

『すまいる通信』配信のお知らせ

毎月20日に
配信します



『すまいる通信』は、あらかじめご登録いただいた方にパソコンや携帯電話などのメールを利用して、支援に役立つ情報やイベントをお知らせするサービスです。ぜひご活用ください。

(情報利用料は無料。ただし通信料は自己負担となります)

新規登録、登録内容の変更・登録の解除

下記のアドレスまたは右の二次元コードより案内に従い、空メールを送信してください。

▶ <https://mail.cous.jp/setagaya-mail/>



〈配信元・問合せ先〉

世田谷区障害福祉部障害保健福祉課 TEL 03-5432-2227 FAX 03-5432-3021

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

開所日時

月～土曜日(祝日及び年末年始を除く)
午前9時～午後6時

利用方法

世田谷区在住の方を対象としています。
何かお困りのことがあれば、まず、世田谷区発達障害
相談・療育センター「げんき」にお電話ください。

TEL 03-5727-2236(相談専用)

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3 階
TEL 03-5727-2235(代表)
FAX 03-5727-2238
URL <https://www.ryo-iku.jp/>

業務受託：社会福祉法人 トポスの会

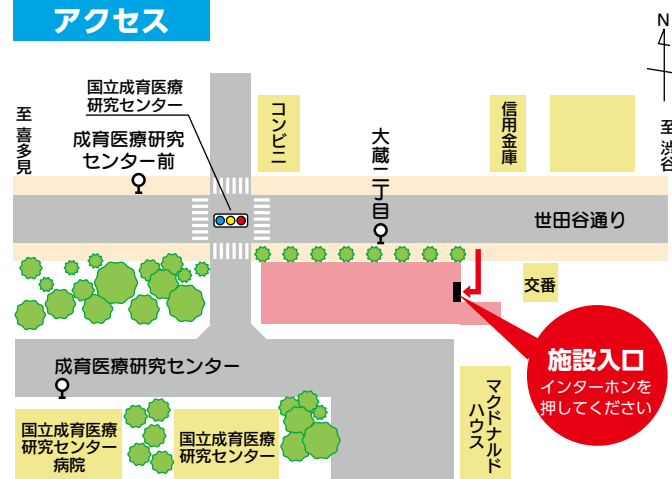
〒123-0844 足立区興野2-18-12
TEL 03-5837-4830 FAX 03-3890-8121

編集後記

今年の講演会は2年ぶりの会場開催でした。「発達障害のある人を地域で支える」をテーマに、発達の少数派の人を受け入れるコミュニティ、社会の役割についてお話をいただきました。感染症対策のため定員を減らしての開催でしたが、今回も動画配信を併せて行っております。ご視聴いただけましたら幸いです。

講師の田中先生にはご多忙の中、貴重な講演をしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

東急バス・小田急バス

〔渋24〕 成城学園前駅 ↔ 渋谷駅

東急バス

〔等12〕 成城学園前駅 ↔ 等々力操車所

〔用06〕 成城学園前駅 ↔ 用賀駅

〔玉31〕 二子玉川駅 ↔ 成城学園前駅

小田急バス

〔渋26〕 調布駅南口 ↔ 渋谷駅

渋谷方面行きのバスにご乗車の場合は「成育医療研究センター前」で下車。成育医療研究センター行き、成城学園前駅行き、調布駅南口行き方面のバスにご乗車の場合は「大蔵二丁目」で下車。

※専用駐車場はありません。

Gpress

せたがや

第47号

2022年11月発行

「ジープレスせたがや」

<https://www.ryo-iku.jp/>
GpressのGは愛称「げんき」のGです。

令和4年度 発達障害理解のための講演会

発達障害のある人を 地域で支える

～知ってほしい、まだまだ知らない発達障害～



令和4年8月31日 北沢タウンホールにて、
子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ

院長 田中 哲氏

による講演会を開催しました。

本講演会の動画を世田谷区
オフィシャルチャンネル
(YouTube) にて
配信しています



▼ 中面にて講演内容の一部をご紹介します。

「げんき」では、発達障害に関する全般的な
ご相談をお受けしています。

まずは
お電話
ください

03-5727-2236

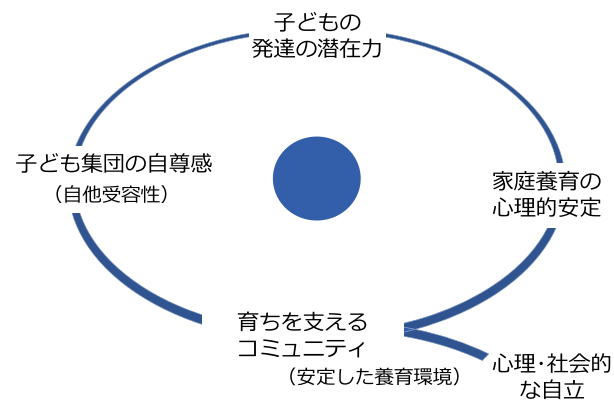
(「げんき」相談専用番号)



発達障害のある人を地域で支える ～知ってほしい、まだまだ知らない発達障害～

こころの「育ち」と「育てるもの」の関係

「育ち」、つまり「発達」とは、子どもが社会で生きられるようになるまでの歩みのことです。「発達」には、からだ・知恵・こころのいろいろな側面があり、大きな力を秘めています。子どもは、この力を発揮して成長していくことで、問題を乗り越えていくことができます。この力を発揮するための要素は、「**家庭養育の心理的安定**」「**子ども集団の自尊心**」「**育ちを支えるコミュニティ**」です。これらが機能することで、子どもの育ちの青信号が灯り、子どもの心理・社会的な自立へのルートが切り拓かれます。



図：子どもの育ちの青信号

●家庭養育の心理的安定

「家」が安心して、出発して帰って来られるところになっていること

●育ちを支えるコミュニティ

大人達が子どものできること・できないことを認めてサポートすること

●子ども集団の自尊心(自他受容性)

自分の成長を大人が喜んでいていると思っている子どもの集団はいろいろな子どもを集団に受け入れられること。その集団の中で、ほかの子どものように物事ができるようになりたかった時に発達の力が最大限に発揮される

発達を支えるコミュニティの役割 ～人間は共同で子育てをする生き物～

コミュニティとは大事なものを共有している集団、コミュニケーションはコミュニティの中で大事なものを共有するための疎通手段を意味します。大事なものを共有する人がいて、コミュニケーション能力は育ちます。その子「らしさ」、発達のテンポの違い、つまり多様性を大切なものとして共有されるコミュニティが、子どもの育ちを支えます。

家庭の役割

子どもが、知らない人の間でも居場所を作って、生活できる力を育む

コミュニティの役割

- ① 安定した関わりの中で、子どもの自己肯定感を高める
- ② 人と関わることで、心の発達を育む
- ③ 子どもの育ちのための居場所を提供する

発達障害とはどういうものか ～発達的少数派という考え方～

発達障害は脳機能のアンバランスさが原因と言われていますが、私は心の発達にアンバランスさがあると考えています。その人にとって大事に思うことや感受性がほかの人たちと異なったり、発達の順番やスピードが違ったりするために「発達的少数派」になり、多数派の人向けに作られた今の社会で生きにくさを感じているのではないのでしょうか。少数派を受け入れる社会の姿勢が問われていると思います。

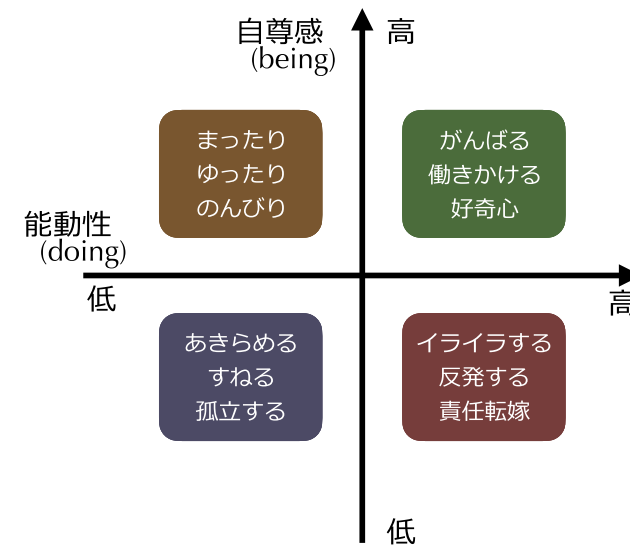
講師 プロフィール

田中 哲 氏(子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長)
札幌病院静療院(せいりょういん) 児童部を中心に児童精神科医として臨床活動を行い、都立梅ヶ丘病院副院長、都立小児総合医療センター副院長を経て、令和元年より現職。専門領域は、思春期青年医学、発達障害臨床、児童虐待の臨床など。



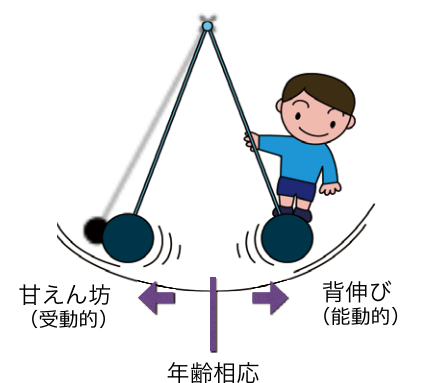
自分であることの心地よさ(well-being)を支援する

「自分」がほかでもない「自分」であること、その人「らしさ」としての感じ方や考え方を受け止め、その背後にある気持ち、つまりbeing(自尊心・在り方)を理解していくことが大切です。誤ったdoing(能動性・行動)はあっても間違ったbeingはありません。その人の行動や言葉を発するdoingを介して、beingを感じた時にコミュニケーションが生まれます。図のような、高いbeing・高いdoingで、いきいきと輝いている状態を子どもらしいとイメージされがちですが、子どもには、困難な時も含めいろいろな状態があるのです。beingを無視してdoingだけの指示をされ続けると、beingとdoingが両方とも下がってしまうことがあります。beingに焦点を当てて大人が働き掛けることで、beingは上がります。自分であることの心地よさ、自分の存在に意味があるという自尊心を感じてもらうためには、ほかの人から「よかった」と褒められたり、評価されたりする関わりが必要です。また、良いbeingを保つためには、家でのんびり、ゆったりするような時間も大切です。



子どもの気持ちは振り子 ～甘えを支えることが挑戦へのエネルギーになる～

子どもの気持ちは常に、「新しいことに挑戦している」背伸びの状態と、「困って泣いて甘える」赤ん坊のような状態と常に揺れています。子どもは、できることでもやろうとしない時があります。大人としては「どっちが本当なの？やるの、やれないの？」と聞きたくなりますが、どちらの姿も本当です。「やりたい時もあればやりたくない時もある」という気持ちの振り子そのものが、子どもの全体と言えます。子どもが成長するためには挑戦することが必要ですが、「失敗しても大丈夫」という保障がない限り冒険はできません。大人が子どもの気持ちを理解して支えることで、背伸びをして冒険するためのエネルギーを溜めることができるのです。



最後に

発達障害である自分を「私はこれでよいのだ」と思えるためには、周囲がその人らしさを理解してあげることが大切です。様々な人達による育ちへの助けがある地域コミュニティを作り上げていけたら、どんなによいことかと思います。